

道の駅ふたつゐ整備事業
川の駅エリアの整備計画

平成 29 年 1 月 能代市

1. 川の駅エリアの整備計画

1.1 整備方針の策定

川の駅エリアでは、道の駅～川の防災機能エリア～川の駅（親水空間エリア）の相互の利活用の促進を図ることをテーマに一体的な整備を行う。

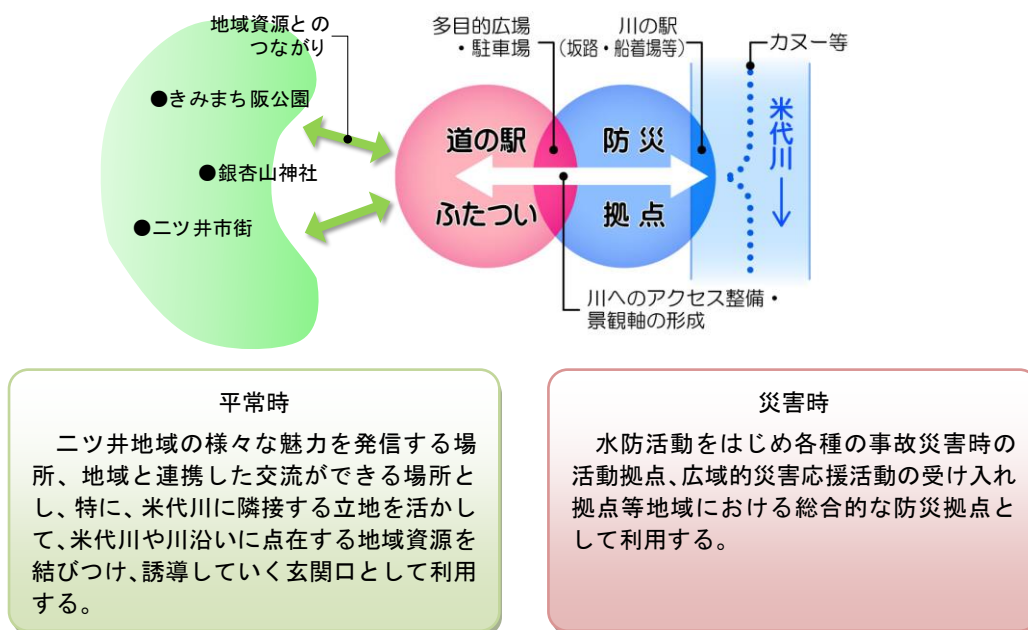


図 1-1 整備のテーマ



図 1-2 川の駅エリアの航空写真

川の駅エリアの検討にあたっては、ワークショップにおける主な意見・要望を踏まえ、「Ⅰ．安全な水辺空間の創出」、「Ⅱ．親水空間の創出」、「Ⅲ．地域資源の活用」、「Ⅳ．地域の方が参加できるソフト施策」の4つの整備方針を策定した。

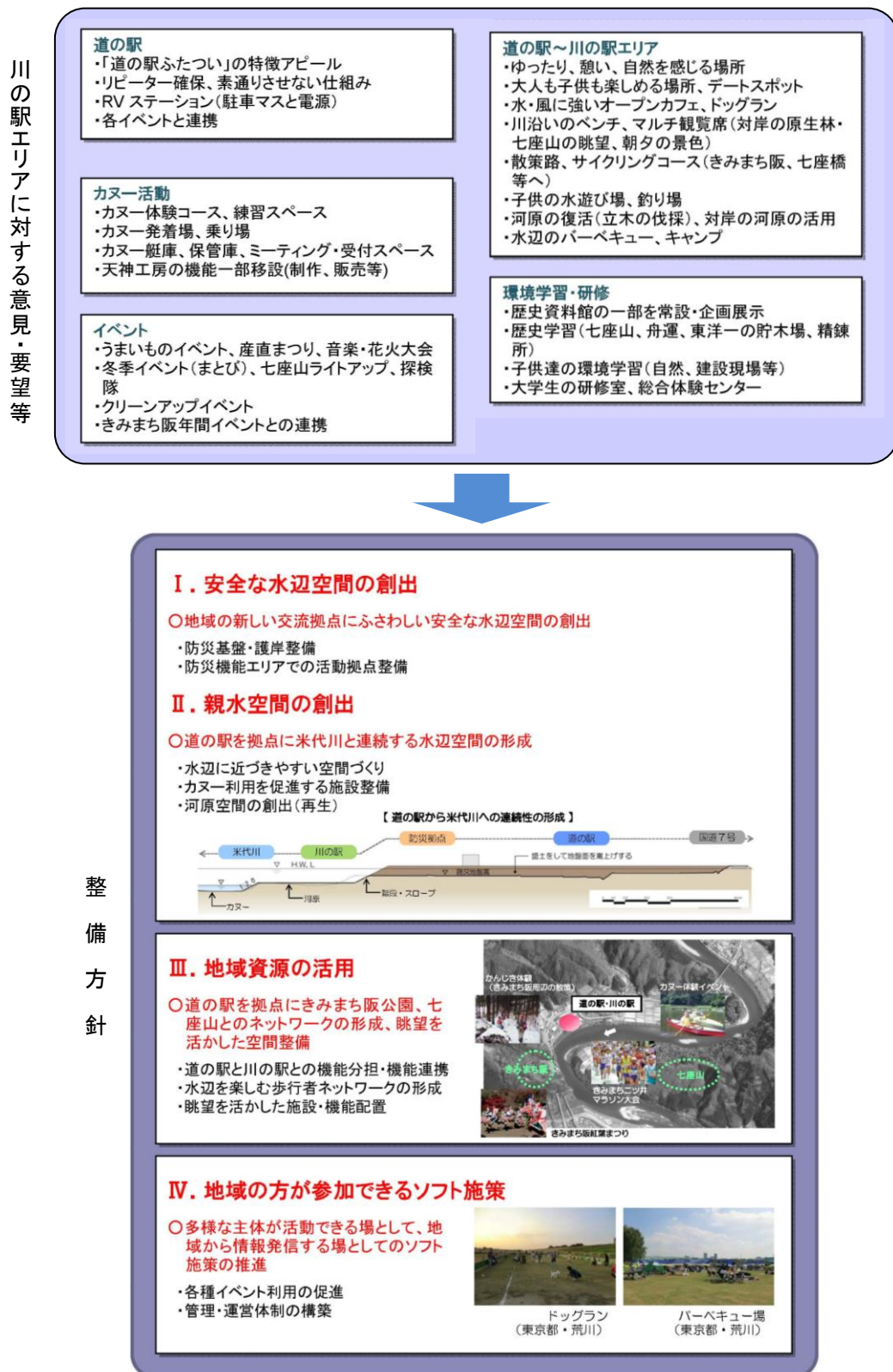


図 1-3 川の駅エリアの整備方針

1.2 整備方策の検討

米代川かわまちづくりの核となる川の駅エリアは、道の駅、川の駅の一体的なエリアであり、平常時は二ツ井地域の様々な魅力を発信する場所、地域と連携した交流ができる場所となる。特に、米代川に隣接する立地特性を活かして、米代川や川沿いに点在する地域資源を結びつけ、誘導していく玄関口として位置付ける。また、災害時は、水防活動をはじめ各種の事故災害時の活動拠点、広域的災害応援活動の受け入れ拠点等地域における総合的な防災拠点として位置付ける。

このようなかわまちづくりの拠点形成を実現するために、当該地の空間特性を踏まえ、必要な整備方策の検討を行う。

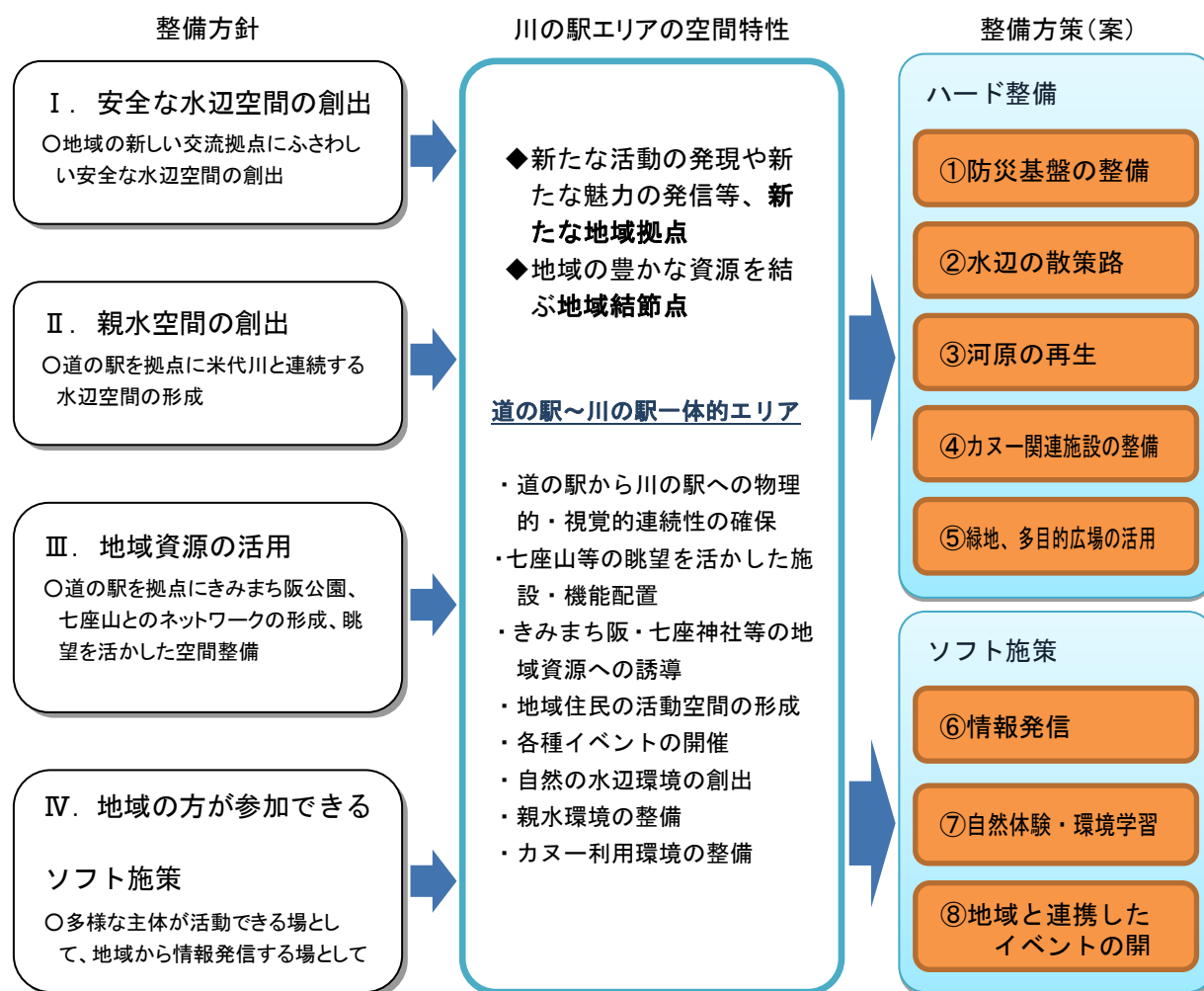


図 1-4 川の駅エリアの整備方策

～ 新たな活動の発現や魅力の発信と、地域の豊かな資源を結ぶ地域結節点 ～

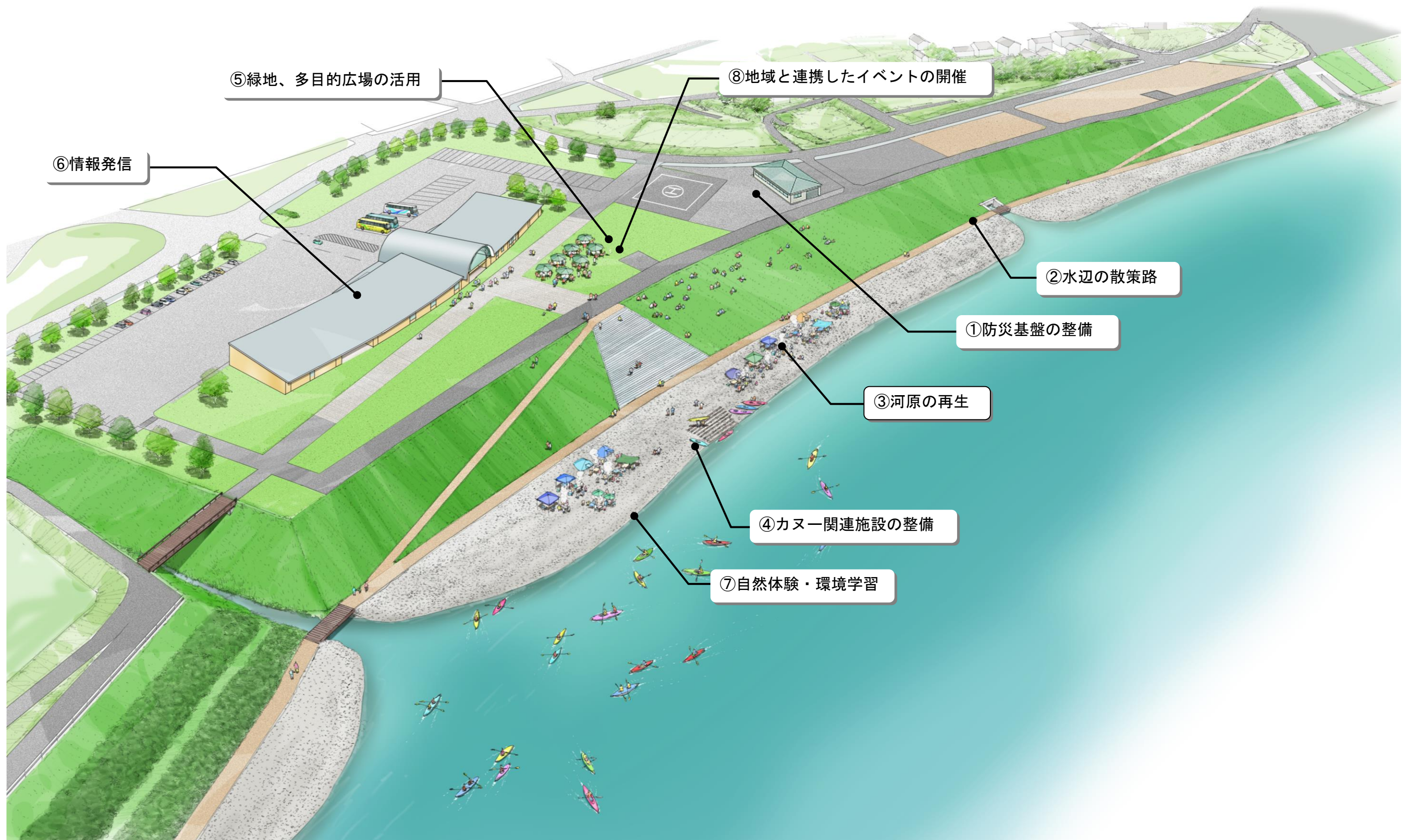


図 1-5 川の駅エリアの整備計画イメージ

(1) ハード整備

① 防災基盤の整備

- ・道の駅整備の造成基盤面と整合を図りつつ、米代川の計画高水位を確保した盛土を整備する。
- ・米代川の護岸の機能を有する法面は、座る、眺める、散歩などに適した緩傾斜として概ね 1:3 の勾配とすることで、道の駅から水辺との一体的空間を形成する。
- ・防災基盤は整備後、川の防災機能計画エリアの一部を含め、維持管理を行う。

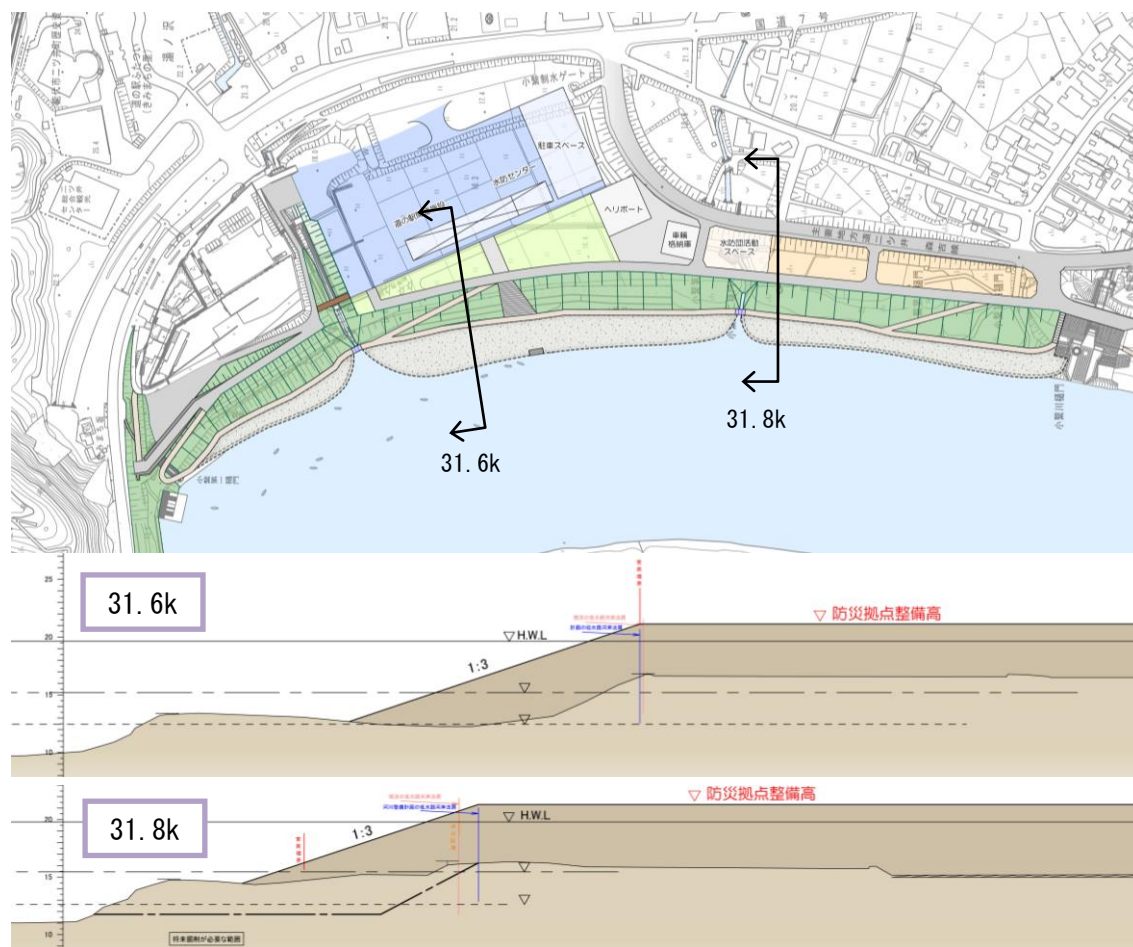
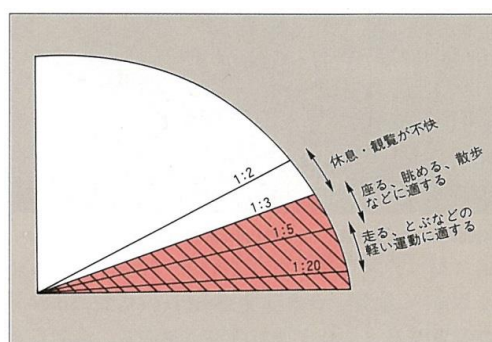


図 1-6 防災基盤の計画平面図と断面図



出典：川の親水プランとデザイン
／（財）リバーフロント整備センター

図 1-7 法面勾配の指標

② 水辺の散策路

- ・道の駅を拠点として、盛土上（法肩）と河原（法尻）にそれぞれ管理用通路を活用した散策路を整備する。
- ・法肩部には、管理用通路を兼ねた散策路を整備する。
- ・湯ノ沢川渡架部には、人道橋を設置する。
- ・法尻部の散策路は、上流の七座神社まで整備する。
- ・各支川流入部には、冠水にも耐える渡架施設を設置する。ただし、小繋川樋門の堤外水路横断部には渡河施設を設けず、小繋樋門上下流側に階段を設置する。
- ・道の駅前の法面には、階段と、坂路を整備する。階段は、道の駅からの景観軸を考慮し、川側に向かって幅が広がる扇型とする。
- ・道の駅から法面の階段、河川敷までの動線の明確化、誘導を図るため、道の駅建屋から階段までの動線を舗装する。なお、舗装は容易に防災資材が掘削できるものとする。
- ・川の駅の上流部には管理用の坂路を整備する。
- ・散策路の動線上に、案内・誘導・注意喚起等を促すサインを設置する。
- ・散策路は整備後、川の防災機能計画エリアの一部を含め、維持管理を行う。

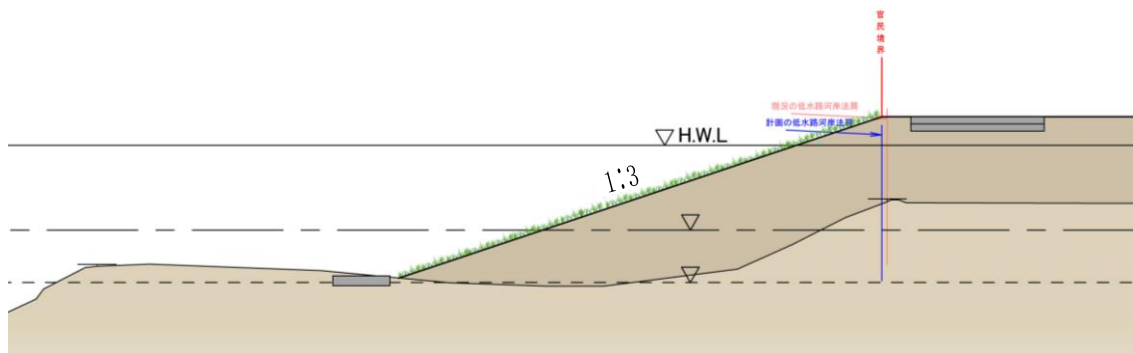


図 1-8 散策路の標準断面図

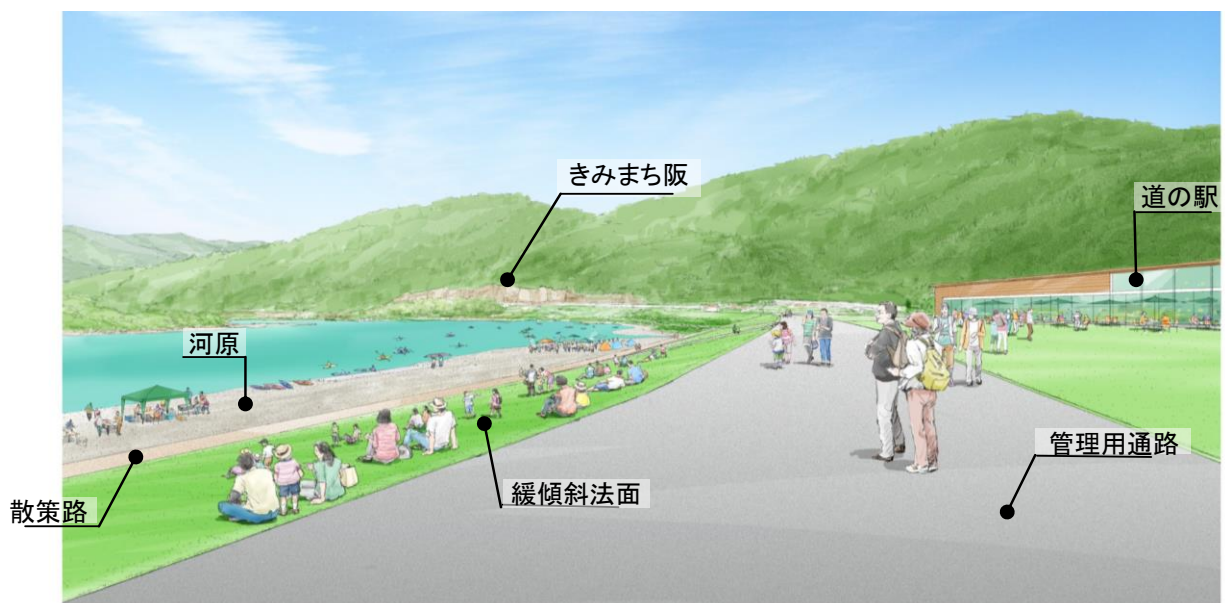


図 1-9 散策路の整備イメージ図

図 1-10 散策路の計画平面図と動線計画

③ 河原の再生

- ・現在の川の駅エリアの河川敷に繁茂する既存樹林を伐採するとともに、堆積した土砂を撤去して河原を形成する。
- ・河原には洪水による影響（堆積・掘削）を想定し、施設整備は行わないものとする。
- ・計画地の水衝部、よどみ部における安全な河原を創出するため、河原の形成の際には、河積を阻害しない範囲で緩傾斜の水際の形成を図る。また、サイン等による注意喚起のソフト策も併せて実施する。
- ・整備した河原は能代市が占用し、冠水により堆積した土砂の撤去等の維持管理を行う。また、洪水による状況改変等をモニタリングし、維持管理に反映する。

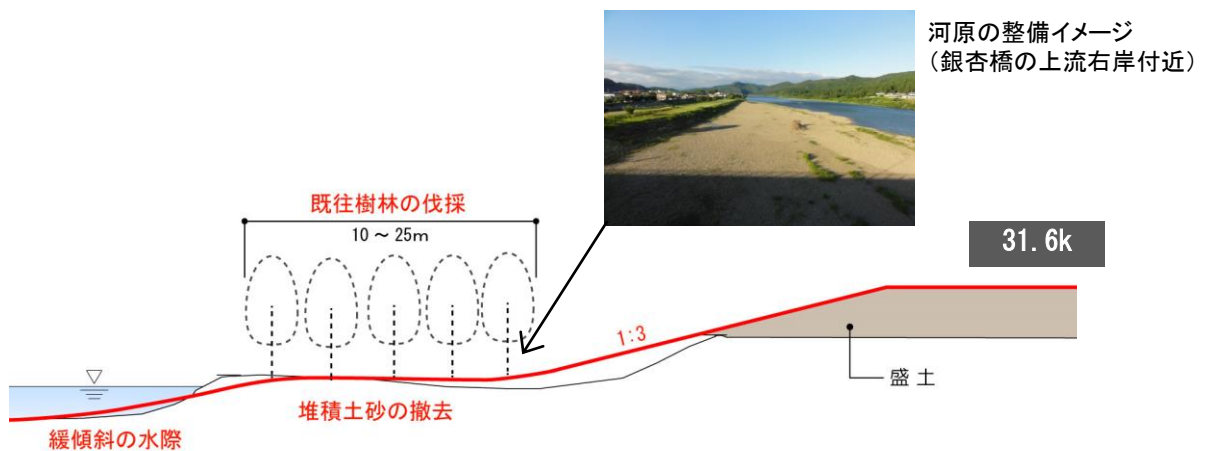


図 1-11 河原の標準断面図



図 1-12 河原の整備イメージ図

④ カヌー関連施設の整備

- ・緩傾斜法面にスロープや階段を設置して、カヌーの運搬動線を確保する。
- ・河原の水際部の一部に、カヌー発着場として階段状の護岸を整備する。階段護岸の長さは10m程度（カヌー2艇分）とする。
- ・カヌー艇庫の整備を検討する。
- ・整備後は川の防災機能エリアの一部を含め、維持管理を行う。



図 1-13 階段護岸を利用したカヌー発着場の写真

⑤ 緑地、多目的広場の活用

- ・川の防災機能計画エリアの多目的広場（約 6,000 m²）において、ワークショップでの要望を踏まえ、オープンカフェやバーベキュー、ドッグラン、バスケット等のスペースを検討する。
- ・検討に当たっては、道の駅川側エントランスの配置計画と、川の防災機能計画エリアの施設配置計画との整合を図り、眺望への配慮、多様な利活用への対応が可能な広場空間の形成に努める。
- ・オープンカフェは道の駅の運営計画と連携して、今後協議を継続する。
- ・3×3（スリーバイスリー）のバスケットコートはアスファルト等で舗装されている必要があるため、川の防災機能計画エリアの舗装部への設置を検討する。
- ・ドッグランは川の防災機能計画エリアの端部に平常時利用ができる空間を確保する。

【意見のあった主な利用形態】

- ・オープンカフェ
- ・ドッグラン（約 1,000 m²）
- ・バスケット 3×3（1 面）
- ・バーベキュー

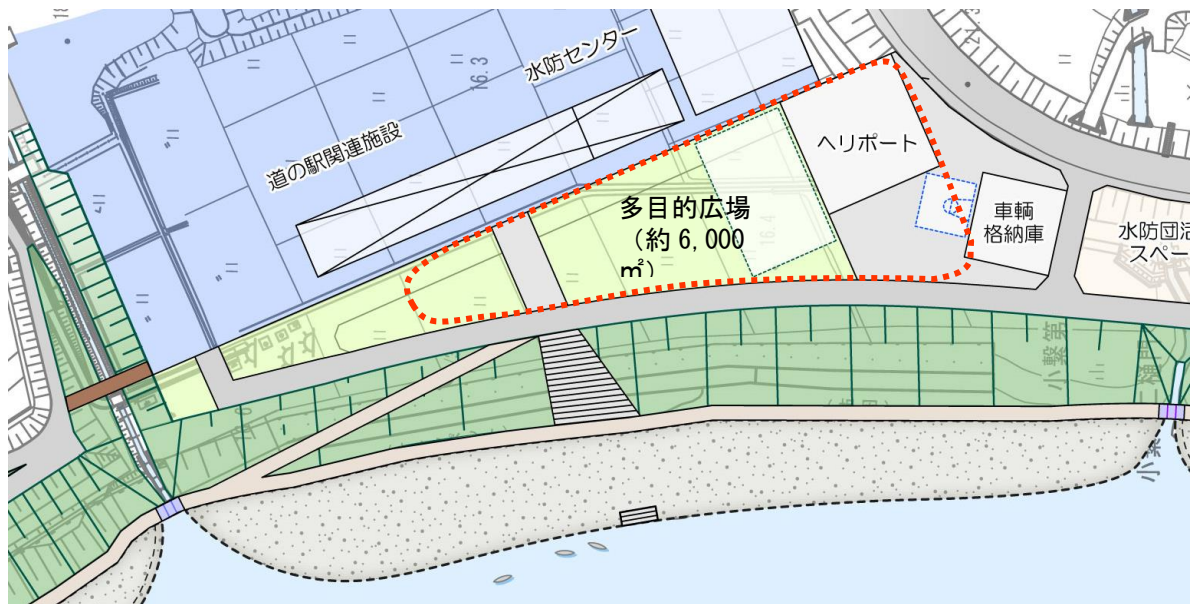


図 1-14 緑地、多目的広場の活用イメージ

(2) ソフト施策

① 情報発信

- ・道の駅から発信する二ツ井地域の情報発信機能の充実を図る。

【提案された主な情報コンテンツ】

- 東洋一の木材集積所跡（七座橋下流左岸）
- 舟運の歴史、遊覧船の運航等
- 精錬所（琴音橋上流）
- 標柱（銀杏橋上流右岸）
- 対岸の原生林、河原、七座山の眺望
- デートスポット『きみまちの鐘』
- 朝方、夕方の絶景 等



天神貯木場(かつては東洋一を誇った。年間3サイクルで約 24 万石(6万 m^3)貯材したといわれる。全木天然杉であった。)

資料:ニツ井製材株式会社 HP (<http://www.sun-zeolite.com/akitasugi/history/history8.htm>)



加護山精錬所跡

安永3年から明治27年まで操業。銀、銅、鉛の生産で秋田藩の財政維持、立直しに貢献。

資料:あきた白神・たびネット
<http://www.akitashirakami.jp/theme8/969.htm>



羽州街道の標柱と銀杏

資料:福岡造園 HP・ブログ
<http://konohanoniwa.blog61.fc2.com/category25-3.html>

② 自然体験・環境学習

- ・道の駅や防災拠点の施設、河川空間を活用し、自然環境に関する学習や、自然との触れ合いを醸成する。
- ・具体的には、河原（屋外）での体験、道の駅（屋内）での学習機能のプログラム化、運営体制の構築を検討していく。
 - ▶ 安全対策（サインの設置等）
 - ▶ 環境学習、体験学習プログラムの整備（屋外・屋内による米代川ミュージアム）
 - ▶ ガイドボランティア体制の整備

講座の内容	
1	開講式
2	エコツアー概論
3	ガイドの心得
4	環境ミュージアム見学
5	カブトガニ産卵観察
6	曽根干潟生き物調査
7	響灘地区エコタウン
8	平尾台めぐり
9	探鳥会
10	修了式



自然環境サポーター養成講座（北九州市）

北九州市HP

(http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kankyoku/file_0390.html)



体験学習ガイドブックの作成（埼玉県）

埼玉県HP

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0501/oyakodetanoshimu.html>)



ボートによる川の観察
（江別市 河川防災ステーション）

資料：江別市 HP



子供たちによる環境学習の様子
（加古川市 加古川）

資料：国土交通省近畿地方整備局



流域講座の様子（吉野川 河川敷）

資料：徳島河川国道事務所 HP



環境学習の時間

（江別市 河川防災ステーション）

資料：江別市 HP

③ 地域と連携したイベント

- ・近隣のきみまち阪公園、二ツ井中心市街地、七座神社等の地域資源、また、各種イベント等との連携を図るため、道の駅、川の駅施設を活用した新しいコースや仕組みづくりを行う。
- ・整備したコースやネットワーク施設の運営に関しては、観光協会と連携・調整を図りながら運営体制を検討する。
- ・道の駅、川の駅を中心とした新たなイベントやコースの例。
 - ▶ 天神工房、川の駅、桜づつみ公園を結ぶカヌーコース
 - ▶ 道の駅、川の駅のサイクリングロード、ロマンチック街道との接続
 - ▶ サイクリングロード、ロマンチック街道でのクリーンアップイベント
 - ▶ きみまち二ツ井マラソンとの連携（道の駅・川の駅をコース化）
 - ▶ きみまち阪公園のイベントの連携（動線の整備）
 - ▶ 川の駅での花火大会、音楽祭り

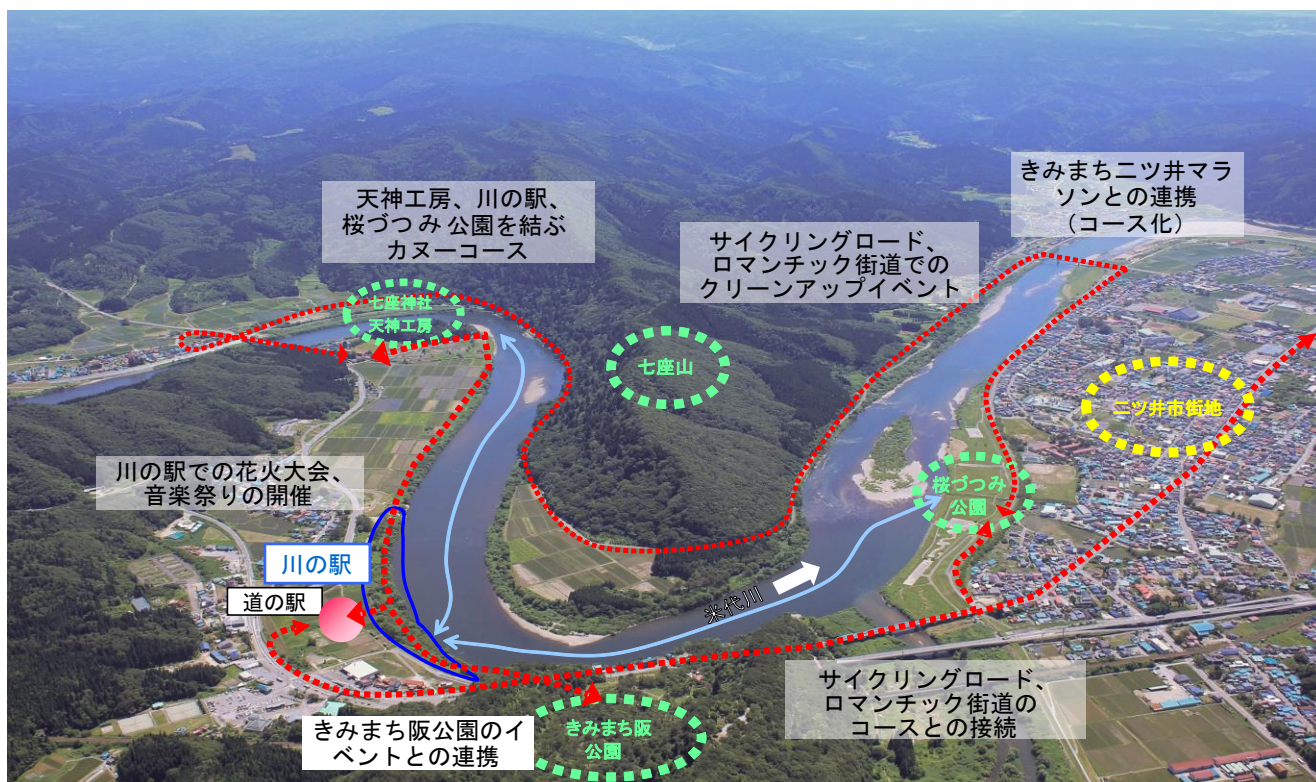


図 1-15 地域と連携したイベントの例

1.3 推進体制

- ・川の駅の整備推進、多様な利活用の促進、維持管理の効率化を図るため、市民、能代市、国の協力体制からなる（仮）川の駅利活用推進協議会の構築を図る。

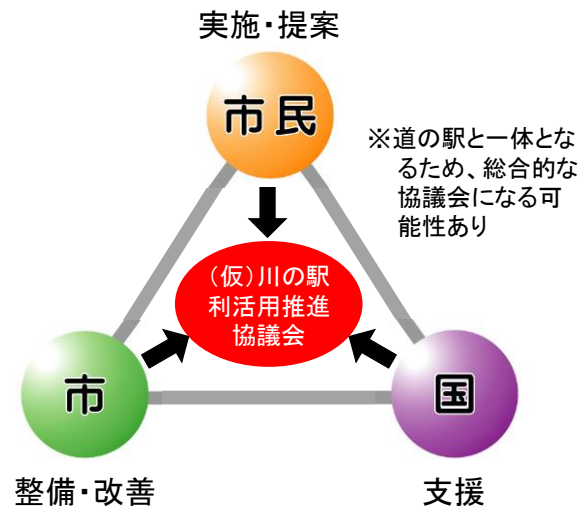
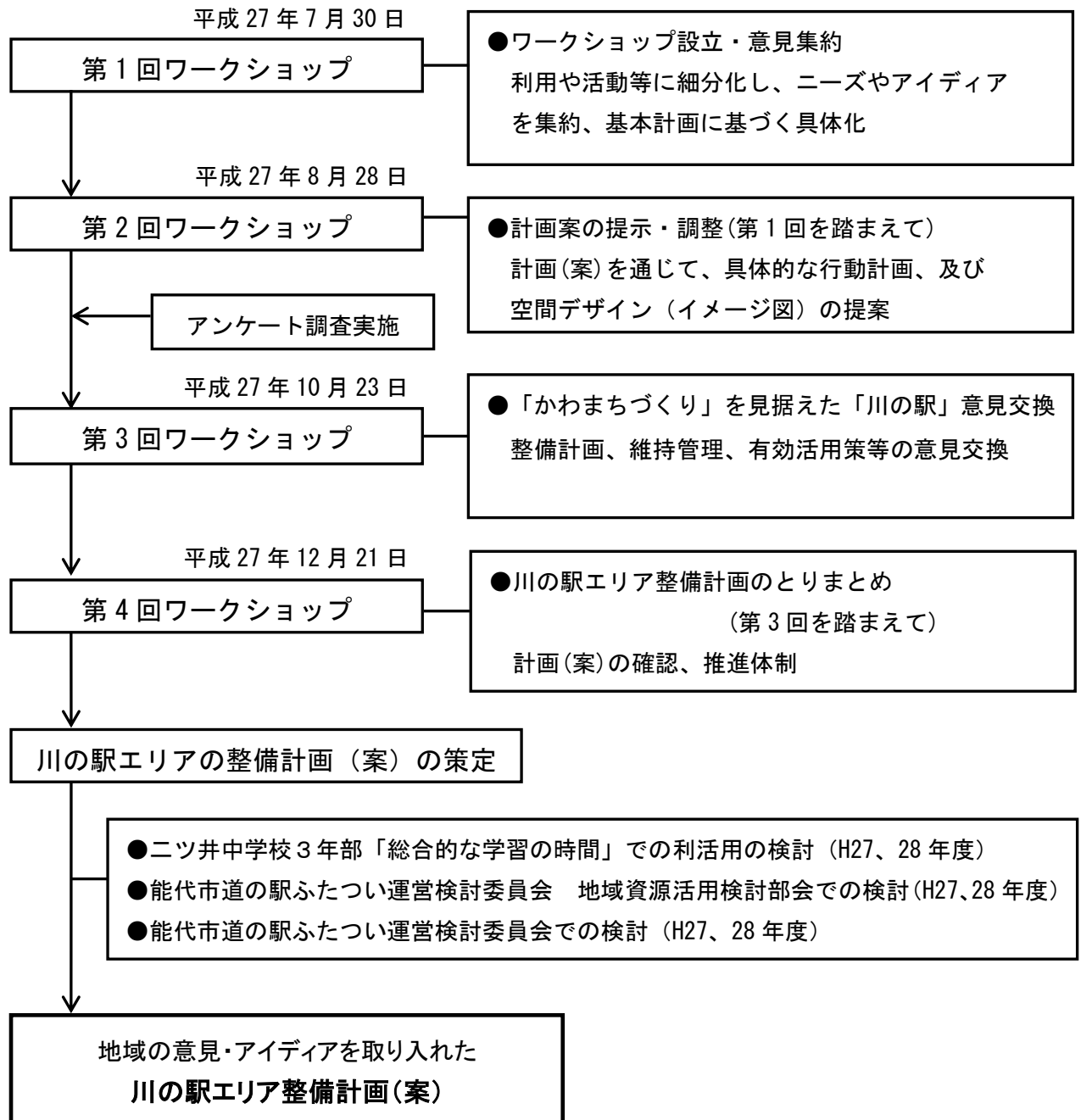


図 1-16 米代川かわまちづくりの推進体制のイメージ

2. 川の駅ワークショップの開催

2.1 ワークショップのスケジュール



2.2 かわまちづくりへの意見

米代川かわまちづくりで行いたいと考える整備については市民とのワークショップで議論し、多くの意見・要望が出された。以下に米代川かわまちづくりの 8 つの視点とそれに対する意見を示す。

表 2-1 米代川かわまちづくりへの意見

	主な意見
①防災基盤の整備	・緩傾斜の法面は良い ・芝生による法面保護が必要 ・斜面にも座れるが長イスやベンチも必要 ・斜面に小段、平場があると良い ・維持管理については、道の駅関係者の協力も必要（組合、協議会の設立も検討）
②水辺の散策路	・散策路は良い ・きみまち阪へつながる散策路が欲しい ・道の駅から壱ノ座への自動車の動線確保が必要 ・七座神社まで散策路が必要（自転車も通行できるようにしてほしい） ・散策路は水につかるため管理が大変 ・レンタサイクルがあれば良い ・道の駅から川の駅へ足を運ぶような誘導が必要（その際、情報発信や安全考慮も） ・サイクリングロードの動線、駐輪場所を明確にしてほしい
③河原の再生	・計画地は水衝部で急に深くなる。安全な河原の再生が必要 ・洪水で埋まるのでは。維持管理のやり方を考えておくべき ・カヌー、水遊び、釣りの棲み分け必要 ・河原にワンドが欲しい（遊べる、乗り易い） ・対岸への渡し、対岸からの眺望も良い ・対岸の樹木も伐採
④カヌー活動	・1:3、1:4の勾配であればカヌーを運べる ・スロープよりも階段状の乗り場が良い ・カヌー艇庫の設置場所は重要 ・駐車場、艇庫、乗り場が近くなるよう配置（湯ノ沢川合流点直上流） ・対岸の河原にもカヌー乗り場や休憩場所（河原から七座山へのアクセス路も） ・維持管理・運営については、カヌー倶楽部と観光協会が一体的に活動することが望ましい ・カヌー発着場の幅は3艇分（約15m）にしてほしい ・現在のカヌーによる渡河状況等を考慮し、発着場は下流側（湯ノ沢川合流点付近）に設置してほしい
⑤オープンカフェ	・カフェがあれば行ってみたい ・米代川の水面、七座山が見えるよう配慮 ・風対策が必要 ・人工の池（安全な水辺）とセットで整備 ・ドッグラン（少し離れた場所なら良い）
⑥情報発信	・道の駅の施設と連携 ・昔、帆掛け船が阿仁の方まで行っていた ・河原に運河整備（木材のいかだ再現） ・カヌー艇庫に貯木場の写真展示
⑦自然体験・環境学習・川の学習	・川のガイド、体験学習の指導者との連携が必要 ・子供たちの環境学習は、十分な安全対策が必要（柵、ライフジャケット） ・米代川の自然、魚が観察できる場所（川の水族館等） ・子供が足をちゃぶちゃぶできる水辺 ・水質保全の取り組み（二ツ井～八郎潟） ・学校のカリキュラム化は困難（安全面・遠い等） ・費用面等の問題から小学校以外の主体も必要 ・道の駅から川にいる子供たちが見えることが大事。死角となる部分の安全管理が必要 ・水辺で釣りをするのは問題ないか
⑧地域と連携したイベント	・春・秋の食べ物イベントは盛況 ・桜まつり、紅葉まつり、秋田杉まつりなど、きみまち阪と七座山が関連したイベントとの連携 ・河原でコンサート、カヌーのイベント ・観光協会が主体で運営するのが良い
○その他	・これからも何かあれば継続的に中学生の意見を集めたり協力していきたい ・高齢者が道の駅、川の駅に行けるような移動手段（バス等）を考えてほしい

